

地底人？ 天空人？

2030年 近未来のライフスタイルを想像してみた

秋田県立秋田工業高等学校

建築科3年 尾形和泉

佐藤壮透

ジョーンズ・マーク・ロバート

■はじめに

2030年私たちの住居はどのように変化しているのか、そして生活はどのように変化しているか

私たちはそんな遠くない未来を考え、私たちは想像してみた、その中でもいろいろな意見が出てその意見をまとめ、ひとつの未来に考えを巡らせてみた。たとえば地下都市、はたまた水上都市になっている。

科学技術の進歩とともにハイテクな家具が生まれているかもしれない。

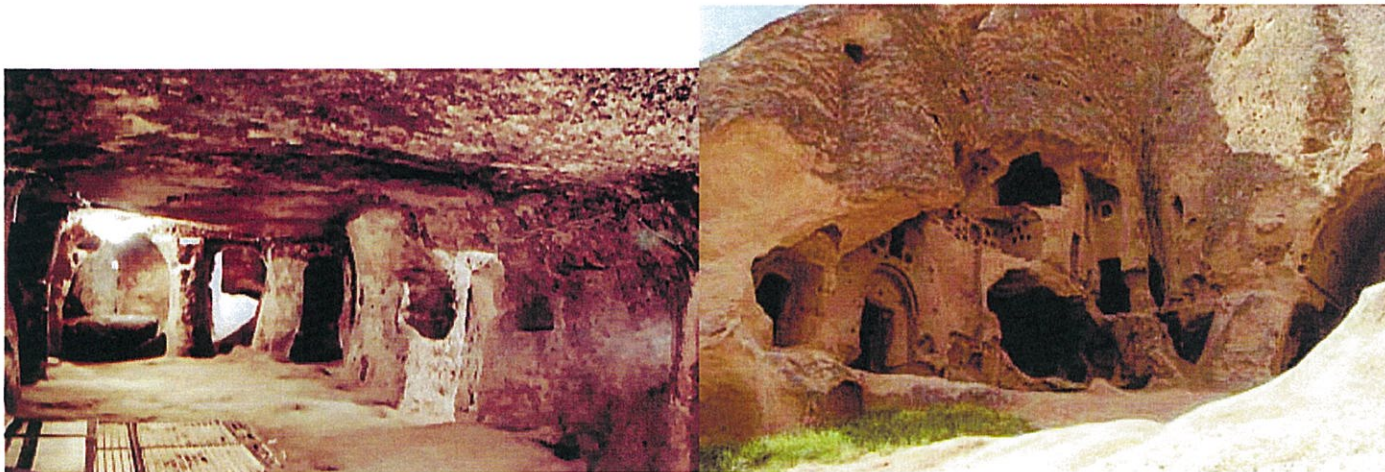
これから自分たちが考えた未来の建築について述べていきたいと思う。

■地下都市について

地下都市というと漫画やゲームの世界の話と思われがちだが、調べてみるとかなり現実的な話であった。

まず過去に「カッパドキア」という古代の地下都市が存在した。近代ではジオフロントという地下都市計画があった。

まず地下の魅力は室内の気温が安定していることと防音性に優れることがある。しかし高コストで結露を防ぐための手間などがありなかなか大規模なものは作りにくい。しかし地上の温度が上昇しているので、一定の気温が保てるのは魅力的だと思う。そして住居を地下にもっていくと地上のスペースがあまるので上では農業などをして有効活用すればいいと思う。



カッパドキア

■水上都市について

近未来ということできっと人口が増加し、さらに温暖化も進行していると予想した。

そこで私が考えたのは水上都市です。建物は球体で浮いており壁となる球体の曲面にはソーラー発電の機能がついて環境にも良い建築物になっている。

建築物の機能として地震がおきた場合は水上にういているので被害を減らすことができると考えた。

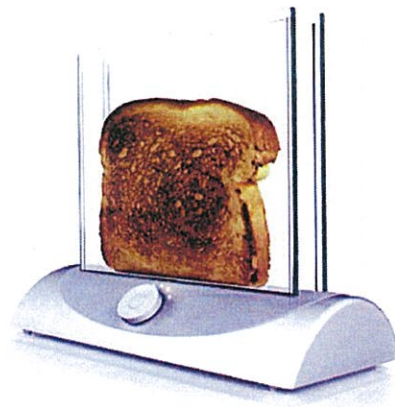
だが問題はいろいろまれてくるものだとも思った。たとえば海上にあるので波に対して住宅自体が揺れてしまう、そこで私が考えたのは床に安定装置をつけて常に水平を保つシステムだ。

■未来の家電について

未来の家電は今よりも更に進化しているのではないかと考え項目ごとにまとめてみました。

・トースター

このトースターはガラスにはさまれている食パンがどのくらい焼けているのかが一目見ただけでわかる。



トースターこうなるかも？

・まな板

一見普通のまな板に見えますが、内部にはデジタルはかりが内蔵されており、切った野菜が何グラムなのかがまな板に映しだされる



未来のまな板

■未来の住宅（ライフスタイル）について

- ・玄関 多くの玄関が暗証番号の入力方式になる。

また、カードキーや携帯電話をかざす方式になる。

- ・リビング 新聞は端末情報で読む。

テレビは40～50インチのテレビが壁につき、家のどこにいても端末情報から簡単に閲覧できる。

- ・キッチン 冷蔵庫の中身が情報端末にリストアップされる。

期限切れが近づいたもの、過ぎたものを情報端末で知らせる。

- ・バスルーム 防水の情報端末で、お風呂に入りながら、音楽・ビデオ視聴ができる。

- ・トイレ トイレは体重や体脂肪を測定してくれる。

また、小便や大便の成分をチェックをしてくれるので簡単に健康チェックができる。

- ・掃除 掃除スタイルはあまり変化しない。自走掃除ロボットは日本の一般住宅に合わないため、流行しない。

空気清浄機は更に普及していく。

- ・ベッドルーム 情報端末によりテレビ視聴が可能。

寝たことを感知すると自動的に電源オフ。

■まとめ

これから未来の建築の可能性は無限に広がっていくと思う。私たちも人の生活に大きく影響するものが作れたらいいと思う。そして、これからの未来でもただ受動的にならず、自分たちで積極的に関わって向上させていきたいと思う。